



卷頭言

久保, 雅義

(Citation)

海事資料館研究年報, 31

(Issue Date)

2003

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005778>



巻 頭 言

海事資料館館長 久保 雅 義

平成15年10月1日の統合を機会に海事資料館の体制が変わりました。久保は附属図書館長と海事資料館館長を兼任していましたが、10月より海事資料館館長のみになりました。今まで以上に多くの課題がありますが、専門員の皆様と力をあわせて新しい状況に道筋をつけて行きたいと考えています。

今までは図書館の事務長が海事資料館の運営を専門的に行っていました。しかし今回の統合に伴い図書館の事務長制度がなくなりました。これに対する対応について色々審議を重ねてきました。その結果専門員を増やすことが提案され、現在坂本教授、野村助教授そして藤本助手の3名が新たに専門員会に参加していただけることになりました。

特に外来者への対応は専ら事務長岩坂さんをお願いしていましたが、これも出来なくなりました。今は1ヶ月毎に2名の担当専門員を割り当て、専門員の先生方にはお忙しい中、外来者への対応をしていただいています。久保も10月の担当をさせていただきましたが、外部からの資料貸し出しや貸し出し資料の受け取りを経験しました。色々な話が聞けて参考になりました。

今回の原稿は以下に記述されているように、杉田先生が近世における「海洋を通してみた東アジアの文化交流—伝統と革新—」と言う韓国成均館大学でのシンポジウムの中で講演されました。この機会に是非北前船の紹介をしていただこうということで専門員一同の願いを快く受け入れていただき原稿を書いてくださいました。お忙しい中でのご執筆どうもありがとうございました。

また科学研究費による中嶋忠次郎コレクションの整理が行われました。これについては樋口先生におまとめいただいています。整理の段階でこのコレクションが約9,000点近いコレクションであることが分かってきました。これで海事資料館の所持品は12,000点になりました。博物館の所持品点数が約3万点と言われているので、かなり近づいてきたことを喜んでいます。

海事調査は杉田先生の紹介でみちのく北方漁船博物館へ行くことになりました。和船収蔵数日本一を誇る博物館と聞いています。

昨年から本学部卒業生の方々が中心になって収蔵庫の整理をしていただいていることは前回の巻頭言で紹介したところです。今回はその整理の過程で出てきたものについての紹介をしていただくことになりました。

最後に週3日間井東さんにパートで来て頂いています。顧問、専門員、OBボランティアの相互連絡、海事資料館の清掃、資料整理に活躍していただいています。

つぎに平成16年の計画を以下に紹介いたします。統合は本学の歴史的節目でもあります。その意味では本学の長い歴史が分かるコーナを設けることも必要ではないかと考え、海事科学部の沿革コーナを皆が目にし易い総合学術交流棟のエントランスホールへ移設する計画を石田憲治先生を中心に進めていただいています。

今年度に引き続き科学研究費の申請を行いました。テーマは中嶋忠次郎コレクション目録の出版です。学部事業計画では北前船の航路図の特別展開催と図録出版を計画しています。これらはいくまで計画ですので当たるかどうかは分かりませんが、楽しみにしています。

新しい体制になって12月で3ヶ月になりますが、どうか旨く回り始めているようで一安心と言ったところです。今後ともご協力のほど宜しくお願い申し上げます。